

条例第18条の2第2項に規定する自主規制団体からの聴き取り結果

(令和2年10月7日実施)

	図 書 名 等	聴 き 取 り 内 容
1	<p>GUSH COMICS ミッドナイト・スパイシー・セックス</p> <p>令和2年9月20日発行</p>	<p>修整が甘いところがあり、性描写も多い。指定やむなし。</p> <p>ストーリーとしては、金に困った男性を“飼う”“飼育”という人格否定的な内容。CHAPTER毎にストーリー展開があるので、これまでの作品ほど、全編に亘る性描写という感覚ではないが、性器の形状がはっきりわかり、また擬音や体液描写も露骨な感じが強い。指定該当</p> <p>絵も上手くストーリーも感じられる。性交描写もそれ程多くなく卑わい感はあまり感じられない。しかし強制的、暴力的な描写、器具の使用、ナイフでの威し等人格否定が強すぎる。男性器の描写も消しが甘く修整されているとは思えない。指定該当</p> <p>性交場面は全編大部分という印象でもない。絵柄も緻密ではないため、卑わい感もない。しかし、性器の修整が中途半端であり、中途半端な性器描写を見せ場としている感が強い。器具の使い方や設定を踏まえ、成人向き。指定該当</p> <p>絵は淡白な印象。性行為も全体にわたって続くわけではなく、擬音、体液描写もこれまでの作品と比べそう多いとは言えないが、性器描写が露骨。太ももを正面に向かって大きく開くシーンなどもあり、露骨である。結合や指挿入シーンもわかる。器具使用あり。複数で拉致し無理矢理性行為を強要するなど人格否定的なシーンもある。指定該当やむなし。</p> <p>画力も高く、キャラクターも立っていて作品の完成度は高い。だが残念ながら、人格否定、器具使用、性器の修整の甘さなどが目立ち、区分陳列の必要性を感じざるを得ない。指定該当</p> <p>男性器の消しが帯のみで、拘束や器具の使用、窒息プレイ、強要といった人格否定と見られる描写がある。該当やむなし。</p> <p>恋愛漫画で、ツンデレ感があるので、強制的に見えない。2人は相思相愛なので、刺激や性癖はマンネリ打破にも読み取れるので問題なし。だが、男性器の消しの甘さと登場回数が青年レベルを超えたかと思う。指定やむなし。</p> <p>絵柄はきれいで卑わい感はない。クールな描写で作品としての価値は高い。しかしながら、性器の消しが甘く形状の分かる表現が見られる。指定該当と言わざるを得ない。</p> <p>性器の消しが白線を数本入れているだけで、形状や血管がわかる。内容的には一部器具などでの使用はあるが、登場人物が淡々としていて卑わいな感じはしない。保留</p> <p>白い線を何本か上から加える形で性器の修整を加えてはいるが甘い。しかしながら、結合部は白くぼかすなどして、はっきりと描かれておらず一定の配慮が見られる。調教プレイという設定ではあるが、暴力、強制に該当する様な箇所も見受けられない。画力の有る作家のための画も非常にきれいで卑わい感はあまり感じない。保留</p> <p>スタートから首輪や手を縛る、道具を使うという所は人格否定につながる。性器のボカシも甘さを感じる。ストーリー上にくしみをぶつける内容とはいえ、暴力性を感じる。ただし、全編セックスずくめという印象ではない。保留</p> <p>性器もある程度修整されており、レイプシーンがあるものの著しい人格否定とまではいかず、指定該当とは必ずしも言えないと考える。指定非該当</p> <p>性器に修整は加えられているが、形状が分かる箇所は見受けられる。ただし、暴力的、強制的と受け取れる箇所は見受けられず、人格否定に当たる箇所も見受けられない。指定非該当</p>

条例第18条の2第2項に規定する自主規制団体からの聴き取り結果

(令和2年10月7日実施)

	図 書 名 等	聴 き 取 り 内 容
2	<p>DAITO COMICS BLシリーズ 義弟の渴望 兄の俺を玩具でイかせて</p> <p>令和2年10月5日発行</p>	<p>描写的には性器の修整がされており、問題ないと考えるが、一方的な性の搾取から最終的に恋愛感情へつながるといふ誤解を与えかねないストーリーになっている点から、指定該当やむなしと考える。</p> <p>修整はされているものの、性描写もあり指定やむなし。</p> <p>題名で既に器具の使用が想像される。性器は白抜きで修整はなされているものの、擬音や体液の描写が極端に多い。また、後半のストーリーで、監禁されているとわかるシーンがあり、社会規範に反する。指定該当</p> <p>弟の一方的な欲望によって兄が犯されてしまうという、暴力的な描写が多い。性描写もだんだん激しく擬音、体液描写も多くなっている。絵からは線の表現が多く卑わい感を感じられないが人格否定部分が多い。指定該当</p> <p>性器の修整はなされているものの、性交描写、体液描写が多い。2つの物語ともに強制的な性交を肯定している感も強い。成人向き。指定該当</p> <p>絵は足が細い体の描き方で、性的刺激を受けにくい印象。擬音、体液描写も一部卑わい感があるが多くない。性行為への持ち込み方がやや強引ではあるが、人格否定とまでは言えない。性行為シーンも全編に渡るといふわけでもないが、後半になると結合の様子が露骨な描写もある。血のつながっていない兄弟という設定だが真の兄弟のようであるところが、逆に意図的なものを感じてしまう。青少年に読ませるには不適切と考える。該当やむなし。</p> <p>「義弟の渴望」「捕らわれたΩ」とともにラストはハッピーエンドで読後感が良い。ただ両作ともに、望まない性行為から関係が始まり、器具使用や拘束を用いて関係性を深めるなど人格否定の要素も多い。また義兄弟とはいえ近親相姦を想起させるシーンも多くある。該当やむなし。</p> <p>性器の消しはしっかりしているが形が分かる。強要、器具、拘束、監禁シーンなど、人格否定の要素があり、そのシーンも多い。また登場人物が未成年であることが分かる。指定やむなし。</p> <p>全体的には性交シーンが多い印象は受けないが、性交シーンにフォーカスすると、擬音、精液の描写が激しい印象が残る。性器はぼかしているが、精液のこぼれ具合で形状がリアルに感じるところがあるのが気になる。全編大部分とは言い難いが要所所で卑わい感が強い。指定該当</p> <p>人物の表情も豊かで、キャラクターの造形に優れ、説得力のある作品となっている。ただ残念ながら、拘束、器具を用いての性交強要など人格否定的描写が散見されることは否定できず、また相当の配慮はされているのだが、性器の形状が分かる絵づくりもないとは言えない。指定該当と言わざるを得ない。</p> <p>義兄弟とはいえ、タイトル通り道具を使ったり縛りあげたり、自由のきかない状況を描いているのは人格否定にもつながるが、最終的には兄弟愛のようなものを感じる。保留</p> <p>全体的にストーリー性があり、読みやすい。一部強引なシーンもあるが、人格否定の印象は受けない。性器の消しはされている。指定非該当</p> <p>性器及び結合部の修整は確実に加えられている。擬音、体液描写は多い印象。最終的には受け入れているように思えるが、冒頭の部分は義弟が強制的に性行為に及んでいる様に受け取れる。画やストーリーがコミカルであり、卑わい感を感じられない。指定非該当</p> <p>全体としてストーリーに卑わい感を感じられない。修整も白抜きになっているので許容範囲である。人格否定もされていない。指定非該当</p>